

発泡スチロールハウス活躍 熊本地震耐え避難所に

2016.7.11 20:36

ツイート

反応

おすすめ 39

G+1

7

298



阿蘇ファームランドにある特殊発泡スチロール製の宿泊施設「ドームハウス」= 6月14日、熊本県南阿蘇村



熊本県南阿蘇村のレジャー施設「阿蘇ファームランド」にある特殊発泡スチロール製の宿泊施設「ドームハウス」約450棟が4月の地震で損傷せず、被災者約660人の避難所として活用されている。ドームハウスを導入している他県のレジャー施設もあり、一時避難所として指定する自治体も出ている。

約20年前に専門家の協力を得て開発した。直径約7メートルの半球形で、発泡を抑えて強度を高めた発泡スチロール製建材（厚さ20センチ）を接着剤で接合する組み立て式。柔軟性があり衝撃を吸収するため、系列の販売会社「ジャパンドームハウス」（石川県加賀市）は「大きな揺れがきても倒壊することはない」としている。

南阿蘇村は4月16日の本震で震度6強を観測、1100棟以上の住宅が全半壊となった。施設では水道管が割れたり道にひびが入ったりしたが、ドームハウス自体の損傷は確認されなかった。ベッドやトイレもあり、村の要請を受け5月21日から被災者を受け入れた。